

保護者様

大阪市立まつば小学校
校長 石橋 博康

登下校時の雷等への対応についてお願い

陽春の候、皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、本校教育にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、近年、突然の雷や突風、激しい雨等、気象の変動が大きく、改めて子どもたちの登下校中における事故の未然防止のための安全対策を講じることが必要です。

そこで、登下校時の雷等への対応を、下記のように進めてまいります。子どもたちの安全確保のために、ご理解ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 「落雷の心配のある場合」とは・・・

- ① 大阪市に「雷注意報」が発令されている。
 - ② 黒雲が出ていて、突風や気温の低下、激しい雨が降り、雷鳴が認められる。
- 以上の状況が認められる場合を「落雷の心配のある場合」とします。

2. 「落雷の心配のある場合」の登校について

- 原則として、各ご家庭の判断で自宅待機をお願いします。
- 学校からの対応についての連絡がある場合は、その指示にしたがってください。
※ ミマモルメや学校ホームページにてお知らせします。
- 登校が午前8時30分を過ぎる場合は、学校までご連絡をお願いします。
- 安全・安心が第一ですので、登校が遅れても遅刻扱いとはいたしません。

3. 「落雷の心配のある場合」の下校について

- 気象状況を確認したうえで、学校からの対応についてミマモルメや学校ホームページにてお知らせしますので、その指示にしたがってください。
※ 「学校で待機した後

4. その他

- 子どもたちが在校時間中に「落雷の心配のある場合」は、屋外での活動を中止し、校舎内に避難させます。
- 校外での活動中に「落雷の心配のある場合」は、屋外での活動を中止し、屋内での活動に切り替えます。

※ 台風発生時等も含め、気象に関わっての緊急連絡が発出される可能性が高いと思われる状況の時は、ミマモルメや学校ホームページの確認をお願いします。

※ 子どもたちの安全・安心を最優先させ、地域別の集団下校や保護者引き渡し訓練を活かしていきます。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

参考資料

気象災害の1つに雷による被害(雷害)があります。落雷による災害は年間1,000件以上あり、生命に危険を及ぼす重大な事故になる場合もあります。「ここなら雷が落ちない」という場所はありません。雷による被災を防ぐためには、雷の特徴を理解して気象情報を活用して備えるとともに、早めに活動を中断し避難等の対応を行うことが大切です。

【予想される気象状況】

- 「雷注意報」の発令(※「雷警報」というのはありません。)
- 真っ黒い雲が近づき、周囲が暗くなる。 ○ 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。 ○ 大粒の雨や雹が降り出す。 ○ 近くに雷が落ちる。

【雷鳴と雷光の位置関係】

- 雷鳴は1秒間に約340m進むため、雷光が見えてから雷鳴が聞こえるまでの時間が10秒なら約3,400m離れた場所で雷が発生していることになります。
雷光が見えてから雷鳴が聞こえるまでの時間が短くなっている場合は、雷をもたらず積乱雲が近づいているサインなので、すぐに安全な場所に避難することが大切です。

【雷が発生した時の対応】

- 雷鳴が聞こえたり雷光が見えたりした場合は、速やかに屋内に避難する。
(雷鳴が遠くても、雷雲はすぐ近づいてくる。また、雨が降ってなくても落雷はある。)
- 校庭やプールでの活動、平地でのハイキング等、近くに高いものがない場所での活動の場合は、特に注意し、速やかに活動を中止し、屋内に避難する。
- 雷の活動は短時間でおさまることが多いので、無理に登下校、帰宅等をせず、屋内に避難・待機する。
- 自転車に乗っていたら、すぐに降りて安全な場所に移動する。

【避難場所等についての留意点】

- 建物の中、自動車・バス・列車の中等へのすばやい避難が求められる。
- 軒先や外壁は雷の通り道になることに注意する。
- 雷は高い場所に落ちやすい。立ち木に落ちると被害を受けるので、立ち木から離れた場所に避難する。
- 近くに避難する場所がない場合は、しゃがみ込む等できるだけ姿勢を低くする。(「雷しゃがみ」)

※ 周囲に避難できる安全な場所がない場合

- ・ 電柱や煙突、鉄塔、建築物等の高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ(保護範囲)に避難する。
- ・ 高い木の近くは危険なので、最低でも木のすべての幹・枝・葉から2m以上は離れる。

【雷の活動がやんだら】

- 雷鳴がやんでから20分程度は落雷の危険があるので、安全な場所で待機する。
- 一つの雷雲が去っても、次の雷雲が近づく場合もあるので、新しい雷雲の接近に常に注意する。
- その後は、気象情報などで安全を確認の上、活動を再開するかどうかの判断をする。

